

様式 2

平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）
実施報告書

1 調査研究校の基礎情報

調査研究実施校名	阿南市立羽ノ浦小学校	
校長名	(ふりがな)	(なかた みつあき)
	氏名	中田 光明
連絡担当者	職名	教頭
	(ふりがな)	(かたおか ひろじ)
	氏名	片岡 弘治
	電話番号	0884-44-2053

2 調査研究校の状況（平成28年1月1日現在）

常勤教員数	35人	うち、学級担任外教員数(11人)
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務 人
		※週 日勤務 人
非常勤教員数	0人	
学級数	24学級	
2年目教員数	2人	
3年目教員数	2人	
初任者の属性等 (所属・校務等)	初任者(A)	4年2組担任 勤労生産奉仕の活動
	初任者(B)	5年1組副担任 職員会議録
指導教員の属性等 (所属・校務等)	①指導教員(総括担当)	4年副担任 研修主任 学力向上委員
	○初任者Aの	
	②指導教員(授業研修担当)	4年3組担任 食育推進員 委員会活動
	③指導教員(一般研修担当)	6年副担任 教務主任 セクハラ・コンプライアンス対策委員
	○初任者Bの	
	④指導教員(授業研修担当)	5年1組担任 音楽主任 わらべうたクラブ
⑤指導教員(一般研修担当)	③と同じ	

3 指導体制等

3-A) 校内の指導体制

(1) 役割

職名等	役割分担
校長	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○初任者研修推進委員の委員 ○初任者の勤務評価
教頭	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修に係る校務の立案 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○初任者研修推進委員会の委員 ○教育委員会との連絡調整
指導教員（総括担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修全体のコーディネーター ○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の全体計画を作成 ○初任者研修推進委員会の実施責任者
指導教員 （授業研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修の年間計画作成及び指導 ○初任者研修推進委員会の委員
指導教員 （一般研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ○一般研修の年間計画作成及び指導 ○初任者研修推進委員会の委員
その他の教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○計画に基づくOJT研修の指導者 ○5年目程度までの教員は、若手教員の会（スプラウト会）のメンバー

(2) 初任者研修推進委員会等

- ① メンバーは、校長、教頭2名、指導教員（総括担当、授業研修担当2名、一般研修担当）の計7名。
- ② 毎月1回の校内企画委員会後に開催することを基本とする。

(3) 「若手教師の情報交換会(スプラウト会)」等

- ① 任用5年目程度までの希望する教員でスプラウト会を作り、自主的な研修に取り組んだり、疑問や不安等について気軽に話し合ったり、親睦を深めたりする場をもつ。
- ② 毎月1回、校内企画委員会と同時刻に開催。

(4) その他特に配慮した指導体制

- ① 初任者Bは、専門教科が家庭科であることを生かして、5年生に配属する。

② 初任者Aは、任用2年目の教員と同学年団に配属することで、互いの経験を共有したり、切磋琢磨しながら共に学び合ったりできるように配慮する。

3-B) 初任者の勤務内容等における配慮事項

① 授業時数，校務内容の軽減を図る。

4 調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 (初任者研修に係る取組状況の記録)	実施状況 (徳島県教育委員会実施分)
4月	4/3 全教職員に初任者研修に関するアンケートを実施 4/15 初任者研修推進委員会（調査研究事業実施計画書の内容検討） 4/30 調査研究事業実施計画書提出	4/2 初任者研修指導教員連絡協議会 4/24 初任者研修授業研修担当指導教員連絡協議会 4/30 調査研究事業実施計画書提出
5月	5/12 スプラウト会（スプラウト会発足，昨年度の初任者からの話，異学年間の情報交換等）	5/19 第1回検討会議 5/29 第1回連絡協議会
6月	6/4 外部講師を招いての校内研修「特別支援教育について」 6/10 初任者研修推進委員会（評価カードの見直し） 6/10 スプラウト会（主に体育の授業についての情報交換） 6/18 外部講師を招いての校内研修「ホワイトボード・ミーティングについて」 6/19 初任者B研究授業「式と計算」5年算数 6/22 学校訪問	6/22 学校訪問
7月	7/2 外部講師を招いての校内研修「救急救命法」 7/8 初任者研修推進委員会（前期前半の振り返りと評価） 7/8 スプラウト会（特別支援学級と協力学級の連携について，前期前半の振り返り等）	

	<p>7/9 外部講師を招いての校内研修 「社会科教育について」</p> <p>7/10 初任者A研究授業 「育ちゆく体とわたし」4年体育</p> <p>7/13 外部講師を招いての校内研修 「学級経営について」</p> <p>7/31 授業研修報告・一般研修報告等作成，市教委に提出</p>	
8月		
9月	9/9 スプラウト会（運動会における指導や運営について）	
10月	<p>10/7 スプラウト会（ムービーメーカーについての講習）</p> <p>10/16 外部講師を招いての校内研修 「特別支援教育について」</p>	10/16 初任者研修実施協議会
11月	<p>11/10 初任者研修推進委員会（これまでの進捗状況の確認と今後の方向性について）</p> <p>11/10 スプラウト会（校内音楽会，先生チーム出し物の合奏練習）</p> <p>11/12 初任者B研究授業（中研） 「広い心で」5年道徳</p> <p>11/16 学校訪問</p> <p>11/25 初任者A研究授業（大研） 「ごん日記を書こう」4年国語</p>	<p>11/16 学校訪問</p> <p>11/18 先進校視察 （福井県木田小学校）</p>
12月	<p>12/14 校内研修（先進校視察報告）</p> <p>12/14 全教職員に初任者研修に関するアンケートを実施</p> <p>12/16 スプラウト会（体育実技，レクリエーション）</p>	12/17 第2回連絡協議会
1月	<p>1/8 授業研修報告・一般研修報告等作成，市教委に提出</p> <p>1/13 初任者研修推進委員会（調査研究事業実施報告書の内容検討）</p> <p>1/13 スプラウト会（体育倉庫の清掃と整頓）</p> <p>1/15 外部講師による校内研修 「トイレ掃除研修」</p>	1/29 第2回検討会議

2月	2/1 初任者研修推進委員会（検討会議報告・評価カードの改善） 2/3 初任者研修推進委員会（調査研究事業実施報告書内容再検討・1年間の振り返り） 2/5 調査研究事業実施報告書提出 2/10 スプラウト会（普段困っていることについての話し合い・1年間の振り返り）	2/ 5 調査研究事業実施報告書提出 2/24 第3回連絡協議会
3月	3/18 授業研修報告・一般研修報告等作成，市教委に提出	

5 調査研究の具体的な内容と成果・課題

視点(1) 初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

- ① 初任者指導のインセンティブが働く校務や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て
- ア 実際に取り組んだ内容
- 昨年度は一般研修担当が総括を兼ねていたが，今年度は総括担当を単独で置いた。総括担当，一般研修担当，授業研修担当の役割を分散させることによりそれぞれの負担を軽減し，初任者の指導に専念できるようにした。
 - 年度当初に全教職員に初任者研修への協力を依頼するとともに，どんな形で協力できるかエントリーシートを書いてもらい，それぞれの教員の得意分野を生かして多くの教職員が初任者研修に関わる体制作りをした。他の教職員からも希望のあった研修内容については，校内研修と兼ねて行った。一般研修協力者 16 名，授業研修協力者 11 名。
 - 外部からも専門的な知識をもった講師を招き，校内研修と兼ねてご指導をいただいた。
 - 「特別支援教育について」（指導主事 中山 登先生）
 - 「ホワイトボード・ミーティングについて」（総合教育センター 大塚真由美先生）
 - 「救命救急法」（阿南市消防署署員）
 - 「社会科教育について」（北島小学校 吉岡壮吉先生）
 - 「学級経営について」（鳴門教育大学 久我直人先生）
 - 「特別支援教育について」（鳴門教育大学 井上とも子先生）
 - 「トイレ掃除研修会」（徳島掃除に学ぶ会）
 - 研究授業を校内研修に組み込むことにより，全教員が初任者の授業を参観し，助言したり，評価に携わったりすることができるようにした。
 - 初任者と2年目の教員が授業を参観し合うことにより，お互いに刺激を受けながら授業力向上を目指せる機会を設けた。
 - 実践授業・研究授業を行った際には，指導者・授業者共に授業チェックシートを用いて授業の評価を行った。課題を明らかにし次の実践に生かせるように，また誰でも指導ができる分かりやすいものになるように，2回改善を行った。



【校内協力者による校内研修を兼ねた一般研修】



【外部講師による校内研修】



【初任者Aによる研究授業】



【初任者Aの授業研究会】

イ 成果

- 本研究に全教職員が参加することにより、初任者の教員としての資質・能力の向上だけでなく、全教職員の指導力向上・授業力向上につながった。また、教職員同士が自ずと密接に会話し、かかわり合う中で、教育意欲の向上が見られた。今後の仕事上の連携にも好影響をもたらしている。
- 多くの教職員が初任者研修に関わってくれたことで、より専門性の高い研修になった。特に、一般研修では、講話だけでなく、実技・演習がたくさん組み込まれ、より実践力アップにつながる研修になった。
- 参観授業や一般研修の内容を把握するために行った事後のアンケートは、自らの指導力・指導内容の振り返りにもなり、今後の指導の方向性が明らかになった。
- 研究授業を校内研修に組み込み、授業研究会ではワークショップ等を取り入れたことにより、全教員が真摯に協議に参加し、助言や評価に携わることができた。
- 授業チェックシートについては、具体的な項目を設定することで、授業者にとっては指導の指針となり、指導者としては助言する内容が明確になり、評価しやすかった。また、PDCAのサイクルを意識することにより、前回の授業との比較がしやすく、初任者の伸

びや今後の課題が明確になった。

- 授業を参観した複数の教員に授業チェックシートを書いてもらうことにより、様々な視点からのアドバイスがもらえ、初任者はもとより指導教員にとっても参考になった。

授業チェックシート（指導者用）

1月18日	参観者氏名	
教科名 国語	単元・題材名	事例と意見の関係をお互いに自分の考えをまとめる（読者の心をつかむ）
クラス 5-1	授業者	

本時の重点ポイント	項目	評価	今後の課題
○	1 児童に課題意識をもたせて授業ができたか。	4 3 2 1	
	2 展開における発問や指示、発言の取り上げ方が適切か。	4 3 2 1	○
	3 板書は適切か。	4 3 2 1	○
	4 ノート指導は適切か。	4 3 2 1	
	5 教師の立ち位置、机間指導は適切か。	4 3 2 1	
	6 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができたか。	4 3 2 1	
	7 個に応じた指導ができていたか。	4 3 2 1	
	8 時間配分は適切か。	4 3 2 1	
	9 ねらいが達成されたか。	4 3 2 1	

(4 たいへんよくできた)

【よかった点】

単元の導入に当たり、教材と意見の関係と自分の生活とをうまく関わり、スムーズな授業展開だった。初稿の感想を書く時の個別指導が充実していた。

【改善策】

- ・子どもの感想をいかに取り上げ、授業を進めようか。
- ・1時間の流れが分かる板書を工夫しなければならぬ。

授業チェックシート（指導者用）

1月19日	参観者氏名	
教科名 国語	単元・題材名	事例と意見の関係をお互いに自分の考えをまとめる（読者の心をつかむ）
クラス 5-1	授業者	

本時の重点ポイント	項目	評価	今後の課題
○	1 児童に課題意識をもたせて授業ができたか。	4 3 2 1	○
○	2 展開における発問や指示、発言の取り上げ方が適切か。	4 3 2 1	
○	3 板書は適切か。	4 3 2 1	
	4 ノート指導は適切か。	4 3 2 1	
	5 教師の立ち位置、机間指導は適切か。	4 3 2 1	
	6 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができていたか。	4 3 2 1	
	7 個に応じた指導ができていたか。	4 3 2 1	
	8 時間配分は適切か。	4 3 2 1	○
	9 ねらいが達成されたか。	4 3 2 1	

(4 たいへんよくできた)

【よかった点】

授業の流れに沿った板書で、子どもの発言をうまくまとめていた。7-7の記入前後の指示もよく考えられ、的確だった。

【改善策】

- ・本時の学習課題をいかに分かりやすく提示するか。
- ・繰り返しの前の合図のための時間の確保を確実に行う必要がある。

授業チェックシート（授業者用）

1月18日	氏名	
教科名 国語	単元・題材名	事例と意見の関係をお互いに自分の考えをまとめる（読者の心をつかむ）

本時の重点ポイント	項目	評価	今後の課題
○	1 児童に課題意識をもたせて授業ができたか。	4 3 2 1	
	2 展開における発問や指示、発言の取り上げ方が適切であったか。	4 3 2 1	○
	3 板書は適切であったか。	4 3 2 1	○
	4 ノート指導は適切であったか。	4 3 2 1	
	5 教師の立ち位置、机間指導は適切であったか。	4 3 2 1	
	6 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができたか。	4 3 2 1	
	7 個に応じた指導ができたか。	4 3 2 1	
	8 時間配分は適切だったか。	4 3 2 1	
	9 ねらいが達成できたか。	4 3 2 1	
	10 本時の評価をし、記録を残せたか。	4 3 2 1	

(4 たいへんよくできた)

【よかった点】

単元の導入ということでまずは児童の身近なことから話せることができた。これからの学習の見通しをもたせることができた。

【改善策】

- ・学習の流れが分かるような板書にする。
- ・児童の感想を机間指導の際に把握しておき、どう取り上げて生かしていくか。

授業チェックシート（授業者用）

1月19日	氏名	
教科名 国語	単元・題材名	事例と意見の関係をお互いに自分の考えをまとめる（読者の心をつかむ）

本時の重点ポイント	項目	評価	今後の課題
○	1 児童に課題意識をもたせて授業ができたか。	4 3 2 1	○
○	2 展開における発問や指示、発言の取り上げ方が適切であったか。	4 3 2 1	
○	3 板書は適切であったか。	4 3 2 1	
	4 ノート指導は適切であったか。	4 3 2 1	
	5 教師の立ち位置、机間指導は適切であったか。	4 3 2 1	
	6 教材・教具などを活用し、分かりやすい指導ができたか。	4 3 2 1	
	7 個に応じた指導ができたか。	4 3 2 1	
	8 時間配分は適切だったか。	4 3 2 1	○
	9 ねらいが達成できたか。	4 3 2 1	
	10 本時の評価をし、記録を残せたか。	4 3 2 1	

(4 たいへんよくできた)

【よかった点】

前回の反省から、流れに沿った板書を工夫できた。発問の厳選ができた。

【改善策】

- ・学習課題の提示の仕方
- ・時間配分をきちんと考え、まめに時間を確保する。

ウ 課題

- 教職員数が多く、時間的に全教職員の特性を生かし切れなかった。
- 学校行事等が立て込む時期は、21学級が特別時間割で動くため、初任者研修の時間を確保することに苦心した。（特別支援学級との調整も関係してくるので、より複雑になる。）初任者・指導教員の心理的負担を軽減するために、初任者研修の時数をもう少し削減して

もよいのではないだろうか。

- 研究授業だけでなく、初任者2名の授業実践を機会ある毎に公開し、全ての教職員が幾度となく参観できる体制が必要であった。
- 2年次の教員と初任者が、切磋琢磨し合いながら、共に授業力・指導力の向上を目指せる研修の場を当初から計画的に設定すればよかった。
- 年度当初に「総合的な教師力」とはどのような資質・能力なのか、明確な規準を作成し、その規準に基づいて定期的に評価していく必要があった。

② 初任者研修推進委員会等の効果的な運用

ア 実際に取り組んだ内容

- できるだけ毎月1回の校内企画委員会に合わせて行うことにより、初任者研修推進委員会の時間を確保した。
- 指導教員同士の情報交換を行い、初任者の成長の様子や課題を把握し、その後の研修に生かしたり、計画を見直したりした。

イ 成果

- 企画委員会と実施日を合わせることで、機会が確保された。
- 2名の初任者研修の進捗状況を確認し合うことができ、推進委員間の共通理解を図ることができた。
- 昨年度の初任者研修の様子と現在の初任者の様子を照らし合わせて情報交換することにより、その都度研修の方向性について修正することができた。
- 評価カードなどを改善できた。

ウ 課題

- 企画委員会が長引き、勤務時間内での話し合いは難しかった。
- 夏季休業日中の実施日を確保したい。（校外研修の回数及び内容を検討してほしい。）
- 初任者の成長ぶりが分かりにくかった。印象を話し合うだけでなく、明確な評価方法を用いる必要があった。
- スプラウト会と同時進行だったので、初任者が参加することほとんどできなかった。時間が許す限り、初任者も交えて話し合う機会をもっと取るべきだった。

③ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備

ア 実際に取り組んだ内容

- 日頃から積極的に初任者に話しかけたり、指導教員同士、また初任者の配属学年団の教員、スプラウト会リーダー等と情報交換したりしながら、初任者の状況把握に努めた。
- 総括担当や一般研修担当が初任者のクラスで入り込みの授業をすることにより、学級経営の様子や児童の様子を把握した。
- 相談体制については、学年団の組織を生かし、日常的に共通理解を図りながら教育活動を行うと共に、気軽に初任者の相談に応じる体制作りをした。また、協議の時間や一般研

修の時間には、じっくりと時間をかけ初任者の相談に応じるようにした。

- 研究授業の際には、学年団で協力し合って指導案の検討や事前授業を行った。
- 悩みを分かち合える同年代の教員との交流の場（スプラウト会）を設けた。



【スプラウト会】



【5年団指導案検討会】

イ 成果

- 職員室では学年団毎に、話しやすい机配置になっており、初任者が抱く疑問や不安にすぐに指導・助言できていた。また、日頃の会話が指導への大きなヒントになることも多かった。
- 管理職に対する相談等もよくできていた。
- まずは学年団でという相談体制があり、他のクラスの担任も一緒に初任者を育てる雰囲気があった。
- 総括担当、一般研修担当が授業に入ることで、学級の児童理解ができ、一般研修時等に学級経営上の悩みなどの相談に応じやすかった。
- 学年団として同じ授業に取り組む中で、いろいろな視点からのアドバイスをもらって、初任者は、よりより授業へと高めていくことができた。
- スプラウト会は、若手が気軽に情報交換したり、親睦を深めたりできる場となった。また、疑問をもったことを話し合ったり、問題を解決するために活動したりしたことが、学校全体によい影響を与えてくれている。

ウ 課題

- 相談内容の記録をしておけば、今後の初任者研修に生かせる。
- スプラウト会が企画委員会と同時進行だったので、どのように進められているのか実際に見ることができなかった。

視点(2) 研修等の内容の充実について

- ① 初任者の年間の勤務、初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫

ア 実際に取り組んだ内容

- 学校行事や個人懇談，通知表作成などの時期に合わせてタイムリーな内容の一般研修を行い，初任者が自信やこれからの見通しをもって学級運営ができるようにした。
- 10年以上の臨時経験がある初任者Aに対して，新卒の初任者Bは実務経験がほとんどない。そのため，初任者Aが経験したことのある問題や日頃抱えている問題等，具体的な事例を一般研修の中で共有し，次年度の実践に生かせるように努めた。
- 初任者や昨年度初任研を受けた教員からアンケートを取り，充実した内容になるよう年度途中で計画に修正を加えながら研修を進めた。
- 初任者Bは，前期は主に複数の学級のTTに入り，たくさんの先生の指導法，学級経営の仕方を学べるようにした。11月からは，次年度担任をしていく実践力を養うためのスモールステップとして，週2回程度一日担任をする日を設けた。

イ 成果

- 年間計画を早めに作成し，その計画に沿った研修が実施できたので，初任者にとって研修内容が事前に分かり，準備が十分でき，成果が上がった。
- 初任者Bは，複数のクラスのTTをすることで，たくさんの先生のよいところ，指導法，学級経営の方法を学べた。ゆったりと，贅沢な1年を過ごせている。
- 初任者Bは，副担から担任をすることで，学級全体の見方や関わり方が変わってきて，「学級をまとめる」，「学級を動かす」，「現在の問題点を感じる」など，いろいろな経験ができています。トラブルの解決法なども試行錯誤できています。一日担任の教材研究の大変さも分かってきた。



【初任者B一日担任の様子（朝の会）】



【初任者B一日担任の様子（提出物チェック）】

ウ 課題

- 初任者AとBでは，仕事の質・量ともに違いがある。本研究のシステム上仕方がないことかも知れないが，ある程度均一化する必要があるのではないか。
- 担任・副担任としての立場の違いから，生徒指導，保護者対応などの話題に対する初任者同士の切実感が違う。
- 担任としての見えない苦勞（学級経営・保護者対応・生徒指導等）を副担では捉えきれない。初任者Bは，年度初めの家庭訪問で正担任と同席するようになればよかった。

- 正担任と副担任が日によって替わる一日担任制では、正担任が初任者Bに学級を任せきれず、つい干渉してしまうこともあった。
- 手厚い指導で2名とも成長の跡がうかがえるが、ある程度指導すれば、後は本人に任せることも必要。いつまでも指導し続ければ創意工夫も見られないし、個性も生まれない。
- 副担任として1年目を過ごした初任者にとっては、2年目が初担任となるため、2年目の研修も必要である。

② OJTによる研修と直接指導による研修のバランス

ア 実際に取り組んだ内容

- 一般研修と授業研修の時間を直接指導の場、それ以外の時間をOJTによる研修ととらえた。直接指導で学んだことを実務に生かしたり、OJTの場で気付いたことを直接指導の時間に整理することにより実感を伴った知識として獲得したりと、双方が関連し合った研修になるよう努めた。
- OJTの場では、可能な限り全教職員に協力を仰いだ。学校行事や児童会活動、陸上や水泳、器械体操等の指導などは、OJTで学ぶことが多かった。
- PTA活動を含む全校務分掌においても、必ず複数体制とし、先輩教職員が指導する体制を確保した。



【運動会予行】



【体操発表会指導の様子】



【水泳検定の指導の様子】



【PTA資源物資回収】

イ 成果

- P T A活動を含む校務分掌の体制はよく機能していた。初任者も不安なく取り組めたようである。
- 直接指導による研修では自分のクラスのことに向き合うことが多いが、O J Tによる研修では、学校全体への視野の拡大につながった。

ウ 課題

- 一部の教職員に負担がかかってしまった感が否めない。誰が、どの場面で、どんな内容について研修を行うのか年度当初に計画を立て、組織的に行わなければならない。
- 生徒指導等の緊急対応の場面への初任者の参加を検討したい。

③ 研修のノウハウの蓄積方法

ア 実際に取り組んだ内容

- 初任者、指導者ともに、研修記録・授業記録・評価カード等をポートフォリオ形式で蓄積していった。
- 受付文書、提出文書、その他初任者研修に関する資料は全て、インデックスを付けて1つのファイルに保存した。データでも保存した。
- 初任者研修に関する情報を全教職員に周知することがノウハウの引き継ぎにもなると考え、機会ある毎に情報伝達を行った。

イ 成果

- ポートフォリオ形式の蓄積記録により、自分自身の成長の過程を的確に把握することができ、今後の方向付けを図ることに役立った。
- 作成文書だけでなく、初任者研修推進委員会で話し合われたこと、スプラウト会の活動、一般研修等で使用した資料など、初心者研修に関することはすべて文書に残すようにしたので、次年度以降も役立つと思われる。
- 終礼等で、初任者自身から自分が受けた初任者研修で学んだことや感じていることなどを話してもらう機会を設けたり、総括担当から初任者研修に関する情報（初任者研修の計画、推進委員会で作成した評価カードの説明、先進校視察報告等）を全教職員に周知したりすることにより、共通理解が図られた。

ウ 課題

- 記録やノウハウを蓄積するだけでなく、今後どう生かすかが来年度以降大切になってくる。
- 研修の進捗状況について全教職員に周知という点では不十分であった。

※ 本報告書のための補助資料がある場合は、別途添付すること。